

最上地域の在宅医療拡充に係るこれまでの取組みとその成果

資料 2 - 2

実施団体名	平成27年度		平成28年度		平成29年度事業内容	県補助金活用の有無	平成30年度の方向性
	事業内容	成果	事業内容	成果			
一般社団法人 新庄市最上郡医師会	<p>もがみ地域在宅医療推進研究会による在宅医療の理解・推進を図る活動を実施。</p> <p>①役員会の開催 ②研修会・ケアカフェの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅でのターミナルケア、看取り 地域包括ケア 脳血管疾患とリハビリテーション 	<p>○研究会が多職種で構成されているため、研修会は在宅医療を多様な視点からとらえた内容となり、研修会参加者の在宅医療の理解が深まった。また、今年度は活動が2年目となり、研究会の活動や存在が地域に知られるようになり、医療介護関係者からの研修会への期待が大きくなってきていることが感じられた。</p> <p>○さらに、講義形式の講演会に併せ、参加型のケアカフェやグループワークを開催することで、参加者同士の交流が図られ、顔の見える関係づくりにつながった。</p>	<p>もがみ地域在宅医療推進研究会による在宅医療の理解・推進を図る活動を実施。</p> <p>①役員会の開催 ②研修会・ケアカフェの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅での看取り 医療、介護、福祉の連携の仕組みづくり 	<p>○今年度は、住民への啓発の他、多職種連携に向けた取り組みとして、医療・介護・福祉の連携の仕組みづくりに関する研修会を開催し、お互いの職種の役割や連携方法についてより理解が深まった。</p>	<p>もがみ地域在宅医療推進研究会による在宅医療の理解・推進を図る活動を実施。</p> <p>①役員会の開催 ②研修会・ケアカフェの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア、がんとの向き合い方 多職種連携、地域包括ケア 	○	<p>もがみ地域在宅医療推進研究会による在宅医療の理解・推進を図る活動を実施。</p> <p>①役員会の開催 ②研修会・ケアカフェの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 多職種連携 在宅での看取り
山形県歯科医師会					在宅療養者のQOL維持向上のため、多職種チームによる口腔ケア(咀嚼・嚥下機能等の回復、誤嚥性肺炎等の予防を含む)と食支援を行うことができる体制の整備		・H29年度と同様の取り組みを実施予定。
新庄最上薬剤師会	<ul style="list-style-type: none"> 新庄最上薬剤師会在宅推進WG委員会 在宅訪問業務の資質向上を目的とした在宅研修会の実施 薬局在宅マップの更新 医療と介護共通の連携ツール構築のための意見交換会の実施 「地域包括ケアシステムの構築」をテーマとした講演会の開催(介護支援専門員協会と共催) 	<p>○他職種との相互理解の深化、薬剤師の訪問服薬指導の活用増加、他職種との連携の推進により、地域在宅医療の質的、量的な改善に貢献した。</p> <p>○介護支援専門員協会と連携事業を実施したことで、在宅医療における薬剤師の関与について理解を深めることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携研修会の実施 新庄最上在宅訪問対応薬局案内の作成および配布 	<p>○研修会の開催により、薬剤師による在宅訪問の資質向上が図られた。</p> <p>○地域で薬剤管理とする患者に対して、患者(家族)や医療機関及び介護関係者への周知が容易となった。薬剤師の訪問薬剤指導の依頼の増加が見込まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携研修会の実施 在宅薬局必須研修会の実施 在宅対応薬局一覧の作成および配布 	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域における在宅医療に取り組む医療関係者を講師とする人材育成の実施 多職種連携に関わる研修(ユマニチュード研修) 在宅医療対応薬局、薬剤師の一覧の作成と配布 お薬手帳による介護支援専門員の把握
公益社団法人 山形県栄養士会	<p>在宅療養者が地域で安心して暮らしていくための栄養士の関わり方を探るため、食事、栄養に関するアンケートを各医療専門職へ依頼し課題を抽出。アンケート結果をもとに、在宅療養生活の質の向上を図るために必要とされる食支援に関する研修会を開催する。</p>	<p>○アンケートの結果では、「在宅医療において栄養改善や管理栄養士、栄養士の介入を必要と感じている」専門職は71%であり、高齢者特有の疾病に関する治療食(21.4%)、摂食低下・食事形態(20.7%)、独居・老々介護にみられる栄養バランス(13.6%)、低栄養、食欲不振からくる小食・痩せ(各12.1%)に関して必要とされている実態が把握でき、具体的な食支援のあり方を捉えることができた。</p> <p>○上記アンケートの結果を得て、調理実習では、3回にわたり、摂食嚥下機能の低下による低栄養予防に焦点を当て、実践を通してより具体的に示すことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 栄養指導等に関するアンケート調査(医療機関等) 糖尿病療養指導士を講師としたスキルアップ研修会の開催 栄養相談会の開催 診療所と管理栄養士の連携促進のための栄養指導体制構築 	<p>○管理栄養士、栄養士をはじめとした専門職の早期介入により、糖尿病の重症化予防と健康増進対策を推進することを目的として事業を展開。</p> <p>○地域住民を対象にした相談会は意識づけの効果があり、診療所と管理栄養士の雇用契約で、診療報酬対象の栄養指導の実施が可能となった。(最上地域の1診療所)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 在宅訪問管理栄養士等を講師としたスキルアップ研修会 モデルケースへの集団及び個別栄養指導 栄養指導記録票の作成、栄養情報提供書の活用 	○	<ul style="list-style-type: none"> 在宅訪問について、先進的な取り組みをしている医師・歯科医師等と連携で、栄養支援をしている管理栄養士を招聘した実務研修会の開催。
一般社団法人 山形県理学療法士会			<ul style="list-style-type: none"> 理学療法部門責任者会議 リハビリテーション連携手帳の作成と配布 介護予防推進リーダー研修会 在宅リハビリテーションにおける評価分析研修会 訪問および通所リハビリテーション推進研修会 自立支援に向けた通所リハビリテーション研修会 医療、介護をつなぐ住宅改修研修会 	<p>○会議の開催により医療介護連携促進に資する討議を行うことができた。</p> <p>○医療、介護および福祉領域のリハビリテーション専門職が記載する手帳を作成し、医療機関や施設等に送付、活用を依頼したことで、医療、介護のシームレスなリハビリテーションの推進基盤ができた。</p> <p>○研修会の開催により、より質の高いリハビリテーションの提供について理解を深め、資質向上が図られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーションを担当するリハビリテーション専門職の人材育成 対象者の自立支援のための通所リハビリテーションにおける体制強化 リハビリテーション連携手帳の作成と配布 各自治体や医療機関と連携した介護予防事業の実施 	○ (提出先:村山総合支庁)	<ul style="list-style-type: none"> H29年度と同様の取り組みを実施予定。 医療、介護のシームレスなリハビリテーションのさらなる推進を図る活動を行う。 在宅で暮らす対象者に対する質の高いリハビリテーションを提供するための資質向上に資する活動を行う。

最上地域の在宅医療拡充に係るこれまでの取組みとその成果

実施団体名	平成27年度		平成28年度		平成29年度事業内容	県補助金活用の有無	平成30年度の方向性
	事業内容	成果	事業内容	成果			
一般社団法人 山形県作業療法士会	<p>①認知症出前講座の開催 ・対象:地域包括支援センター、老人クラブ等 ・内容:認知症の方への対応、認知症予防のための工夫等 ②当法人最上地区会員の出前講座講師としての資質向上 ・出前講座への見学参加 ・講師連絡会議、最上地区講師養成研修会の開催</p>	<p>○地域住民や医療、福祉施設職員を対象に出前講座を開催した。アンケートでは90%以上の方から、「参考になった」「満足した」と回答を頂いた。「例えを交えながらわかりやすかった」「認知症にならないよう気をつけたい」「若い人に聞いてほしい」「自立支援について再確認できた」等の具体的意見を多数頂いた。出前講座に併せて、参加者パンフレットの改定も行った。これらの取組みにより医療・福祉関係者の認知症支援に関する対応力向上、住民の認知症に対する理解が深まり、住民自身の取組みの促進につながったと考える。 ○出前講座の見学やメール配信を通して、<u>最上地区会員(作業療法士)の、本事業への協力体制の構築、認知症支援に対する対応力向上につながった。</u></p>	<p>○地域で暮らす心身に障害をもつ方や要支援、要介護者の方々が、地域で主体的な暮らしを続けられるようにするため、以下の取組みを実施。 ・事業所や一般向け研修会等への講師派遣 ・認知症の出前講座 ・自立支援型地域ケア会議への専門職アドバイザー派遣 ・入院、入所時から在宅での生活を見据えた働きかけ ・質の向上を図るための多職種合同研修会の実施</p>	<p>○認知症の症状の説明、予防法など効果的な対応の普及が図られた。 (研修会講師:11件、出前講座:10件) ○地域ケア会議において、作業療法の視点を活かした自立支援のための助言や提案を行うことができた。 (ケア会議への参加:34回)</p>	<p>○地域で暮らす心身に障害をもつ方や要支援、要介護者の方々が、地域で主体的な暮らしを続けられるようにするため、以下の取組みを実施。 ・事業所や一般向け研修会等への講師派遣(11月末までの計画を含め、12件) ・認知症の出前講座(11月末までの計画を含め、8件) ・自立支援型地域ケア会議への専門職アドバイザー派遣(3月末までの計画を含め42回) ・入院、入所時から在宅での生活を見据えた働きかけ ・質の向上を図るための多職種合同研修会の実施</p>		<p>・H29年度と同様の取組みを実施予定。</p>
一般社団法人 山形県介護支援 専門員協会	<p>・地域包括ケアシステムの構築についての講演会の開催 ・医療機関、他職種職能団体等との会議等を実施して、医療職・介護職・リハビリ職が必要な情報を網羅した書式等を作成し、医療介護双方向のシステムを構築する。</p>	<p>○最上地域における「地域包括ケアシステム構築」について理解を深め、各専門職が共通の認識を持つことができた。 ○最上医療連携共通のツールに関しては、多職種会議にて意見を聞きながらケアマネから医療機関の部分については原案を作成することができた。今後は医療機関と話し合いながら、医療機関からケアマネのツールの部分を来年度に作成し、医療機関と相談しながら導入に向け働きかけたい。介護事業所間の連携強化を目指しネットワークを構築していく。</p>	<p>○最上地域で構築可能な「地域包括ケアシステム構築」に関する研修会の開催。 ・多職種連携に活かす課題分析総括表について ・地域包括ケアシステムにおける多職種連携について ・地域包括ケアにおける在宅医療サービスの活用 ○多職種連携ツールの検討</p>	<p>○研修会等の開催により、「多職種との連携が図りやすくなってきた」「徐々にハードルが低くなってきている」との意見が出されている。 ○連携ツールに関しては、情報提供する側からの情報は過多となっているため、逆に利用しにくいのではないかとの声も多く聞かれるため、必要な情報を医療連携プロジェクトチームにて厳選していく必要がある。</p>	<p>○地域包括ケアシステムにおける多職種連携に関する研修会の開催 ・ターミナルケアの実情と課題 ・事例検討を通じた多職種連携について ・難病疾患について ○医療・介護との共通の連携ツールについて</p>	○	<p>・在宅医療や在宅医療に取り組む医療福祉関係者を講師とし、多職種連携に取り組む専門職を含めた人材育成の実施。</p>
一般社団法人 山形県言語聴覚士会	<p>医療福祉関係者を対象とした摂食嚥下障害のある在宅療養者の食支援に関する研修会の開催</p>	<p>○役員会での意見交換で、最上における在宅の嚥下治療への意識が高まり、必要な支援が明らかとなった。 ○研修会開催と併せたカフェ型トークでの意見交換を行ったことで、在宅療養をしている嚥下障害者について、相談できる関係づくりができた。</p>	<p>○役員会の開催 ・在宅療養されている嚥下障害者についての課題の検討 ○研修会の開催 ・栄養管理、嚥下訓練、口腔ケアなどの知識、技術に関する研修会</p>	<p>○地域住民や介護者に対し、嚥下障害とは何か、在宅での食支援に必要な視点と対応について意識づけることができた。 ○口から安全に食べ続けるための知識、介護技術、嚥下障害の予防について多職種での取り組み、顔の見える関係づくりができたことで、在宅療養者へ多職種で連携して適切な支援が図られると考えられる。</p>	<p>○役員会の開催 ○研修会の開催 ・地域住民等を対象とした嚥下障害に関する講演会 ・医療福祉介護関係者を対象とした嚥下障害に関する専門知識の研修</p>	○	<p>・在宅医療に取り組んでいる医療関係者を講師とする人材育成の実施(主に摂食嚥下障害への食支援、難聴・高次脳機能障害などのコミュニケーション支援)。</p>
最上地域 医療連携推進協議会	<p>・医療連携を推進するための最上地域医療連携推進協議会の開催 ・地域医療連携バスの運用拡大に関する検討会の開催 ・医療連携促進のための研修会等の開催</p>	<p>○胃がん、大腸がん、乳がんに関する地域医療連携バスの運用について話し合いが行われ、運用拡大について検討していく方向性が示された。 ○医療情報ネットワークにおける地域医療連携バスの運用可能性について、継続して検討していく方向性が示された。</p>	<p>・医療連携を推進するための最上地域医療連携推進協議会の開催 ・地域連携クリティカルパスの運用拡大に関する検討会の開催 ・医療連携促進のための勉強会の開催</p>	<p>○県立新庄病院の地域包括ケア病棟の運用状況やリハビリの取り組みについて学ぶとともに、地域包括ケア病棟の役割などについて意見交換を行い、医療連携について理解が深まった。 ○クリティカルパスの活用や医科歯科リハなどの連携について意見交換を行い今後の部会のあり方について検討した。</p>	<p>・医療連携を推進するための最上地域医療連携推進協議会の開催 ・リハビリテーション連携に関する勉強会の開催 ・地域連携クリティカルパスの運用拡大に向けた検討</p>		<p>・H29年度と同様の取組みを実施予定。</p>
最上総合支庁	<p>・在宅医療推進、多職種連携に関する普及啓発のため、最上地域の退院支援に係る情報交換会の開催 ・在宅医療体制づくりに向けた在宅医療推進事業報告会の開催 ・在宅医療の普及啓発のため、民生児童委員等を対象とした在宅療養支援研修会の開催</p>	<p>○退院支援における各関係機関の役割等の情報交換を行うことで、連携強化につながった。 ○関係機関による情報交換の場を設けることで、地域の課題を共有し、具体策について検討することができた。 ○民生委員を対象に在宅療養推進研修会を実施し、在宅医療について理解を深めることができた。</p>	<p>・在宅医療への円滑な移行に向け医療介護福祉関係者を対象とした退院支援に係る情報交換会の開催 ・在宅医療の普及に向け先進的に取り組む関係機関による情報交換会の開催 ・在宅医療の普及啓発のため、民生委員等を対象とした在宅療養支援研修会の開催 ・訪問看護の普及に向けた講演会の開催</p>	<p>○退院支援に係る情報交換により関係機関の連携強化につながった。 ○関係機関による情報交換の場を設けることにより、互いの取り組み状況共有や顔の見える関係づくりにつながった。 ○民生委員を対象に在宅療養推進研修会を実施し、在宅医療について理解を深めることができた。 ○訪問看護について、利用方法やサービス内容など具体的な講演により、地域住民への理解が進んだ。</p>	<p>・在宅医療への円滑な移行に向け医療介護福祉関係者を対象とした退院支援に係る情報交換会の開催 ・在宅医療の普及に向け先進的に取り組む関係機関による情報交換会の開催 ・訪問看護の普及に向けた講演会の開催</p>		<p>・退院支援に係る情報交換について、担当者の交代や新規の介護関係施設の増加などもあり、継続して実施。 ・在宅医療の普及に向け先進的に取り組む関係機関の情報交換については、多職種による連携強化が不可欠であるため、継続して実施。 ・地域住民に対する在宅医療に関する理解を深めるための普及啓発取り組みの継続。</p>